第4回城端線・氷見線再構築会議 議事録

日時：令和7年5月16日（金） 14：00～14：35

場所：富山県庁4階大会議室

出席者：出席者名簿のとおり

1 開会

（事務局）

それでは定刻となりましたので、ただいまから第4回城端線・氷見線再構築会議を開催します。開会に先立ちまして、新田知事からご挨拶を申し上げます。

2 挨拶

（新田会長）

気温が少し上がっていますが、お忙しいところ、ようこそおいでいただきましてありがとうございます。前回の振り返りですが、前回は新しい車両のタイプをハイブリッド型の気動車ということに、皆さんの同意を得て決めさせていただいたところです。あわせて、新型車両のデザインの検討状況を、その時点でご説明したところです。また、各市と鉄道事業者さんの事業とまちづくり等の関わりも説明していただきました。

さて今回は、城端線・氷見線新型車両デザイン検討作業チームが鋭意検討してまいりました新型車両のデザインをお示ししたいと思います。やはりデザインというのは、城端線・氷見線が変わったんだ、持続可能で将来に向けて頑張っていくんだという、ある意味シンボルになるものだと思います。つまりとても大切なことだと思っています。

城端線・氷見線が本当に将来にわたり、皆さんから愛されて、そして長く続いていくように、今日は大切な会議になろうかと思えます。皆さんの忌憚のないご意見をよろしく願います。

（事務局）

本日の出席者の紹介につきましては、お手元の出席者名簿の配布をもちまして代えさせていただきます。

以後の議事の進行は会長の新田知事に願います。

3 議事

（1）新型車両のデザインについて

（新田会長）

まず、新型車両のデザインについて協議します。車両デザインですが、この再構築会議にデザイン検討作業チームを設置して検討を重ねてきたところです。これまでの検討の経過について事務局から説明をお願いします。

※事務局から資料1「新型車両デザインの検討経過」に関して説明

(新田会長)

今説明のとおり、車両デザインは昨年9月に、作業チームを設置し、2回のプレゼンを含んで4回の作業チームで検討を進めてきたところです。作業チームの検討状況についてはその都度、再構築会議のメンバーの皆さんにも報告しながら、ご意見を伺った上で次のステップに進めるといった丁寧な作業をしてきたつもりです。

それではここで、作業チームとして選考したデザインを準備します。

※事務局が資料2「新型車両デザイン及び選考理由」及び参考資料1「デザイナープロフィール」を配布、新型車両デザインのパネルを掲出

(新田会長)

それでは準備ができましたので、新型車両のデザインとその選考の理由について、作業チームの皆さんを代表して、富山県総合デザインセンターの桐山所長からご説明をお願いします。

(桐山氏)

総合デザインセンターの桐山です。先ほど説明がありましたように昨年秋からこの作業をスタートしてまいりました。沿線4市の期待も非常に高く、富山県としても重要なプロジェクトと認識しています。

また、単にデザインが良いだけではなく、地域住民の方々、さらには来県される海外からのインバウンドを含めて、骨太で、皆さんから愛されるデザインが何かということを活発に議論してきました。私は、西のキャニオンルートだと思って、このプロジェクトにあたっています。先月ミラノで行われたミラノサローネではヒューマン、いわゆる人間のための思考ということがテーマになっています。これからのデザインがどうあるべきかということ考えた上で、住民の方々、県民の方々、さらには県外の方々、そして広く海外の方々から愛される、そういう人間中心のデザインというのが求められているということを強く認識しています。

それでは、このデザインについてお話をさせていただきます。デザイナーは鈴木啓太さん。PRODUCT DESIGN CENTER (プロダクトデザインセンター) を主催しておられます。コンセプトは「KASANE」(かさね) です。

選考理由は、「KASANE」にも関わることなのですが、富山のこの地域、自然、風土、文化を再構築して、さらに丁寧な調査や理解に基づいたストーリーを立てておられます。特に、伝統と未来、海と山、東西と南北、そして日常と観光がどうあるべきかということで、私たちが想像する以上に非常に緻密に深く考察され、提案をいただきました。城端線・氷見線の未来を、高い次元でシンボリックしたデザインだと評価をしています。

車両の外観は沿線の風景や自然に馴染み、海と山を結ぶ路線を統合しつつ、あいの風とやま鉄道との繋がりを感じるデザインということで、非常にシンボリックで、マークを含めて丁寧に作業がされていたと思います。

車両の顔となる前面デザインは安全性と審美性が一体となったデザインではないかと思えます。少し小さくて見えづらいのですが、ライトはLEDを使っており、個性豊かな表情を醸し出すことができます。

内装は明るい室内空間に天井、床に木目を活用して、温かみを作っています。沿線の車窓から眺める緑豊かな基調と座席のグリーンがコンビネーションを成して、富山の自然豊かな環境に適合するインテリア空間ではないかと思えます。窓の一部には丸窓を用意しており、沿線の方々が愛着が持てたり、さらにお子さんたちがそこから顔を出したりと、ワクワク感を演出するデザインになっています。

デザイナーの鈴木啓太さんは、新進気鋭のデザイナーとして、神奈川から東京に乗り入れている相模鉄道のブランドアッププロジェクトを担当されています。2019年にはグッドデザイン賞を受賞され、また、インダストリアルデザインだけではなく、非常に多面的な活動、さらには海外でもその一端を見ることができ、これからますます躍進するであろうというデザイナーです。私どもデザインセンターとの繋がりも深く、そういった意味では非常に富山にも馴染みがあると思えます。去年の秋から振り返ってみますと、様々な意見や様々な人に対し、ちゃんと耳を立て、きちんと聞き、細やかな対応、いわゆる真摯な対応であったと非常に作業チーム一同共感しています。こういった方であれば、よりこの魅力をきめ細かにさらに進化していくことができるのではないかと考えており、以上の点が選考の理由です。

(新田会長)

選考の経過を詳しくご説明いただきありがとうございます。それでは、今ほど桐山所長から説明の中にお名前が出ましたデザイナーの鈴木啓太さんは本日オンラインで参加いただけることになっています。準備をお願いします。

※鈴木啓太氏がモニターに映し出される。

(新田会長)

鈴木さんこんにちは。今日はありがとうございます。本日は、城端線・氷見線再構築会議を開催中です。沿線の4人の市長さん、またJR西日本さん、この両線が移管することが決まっているあいの風とやま鉄道さん、また国交省の方にもご参加いただいています。鈴木さんのデザインについて、富山県総合デザインセンターの桐山所長から、選考した経過をご説明いただいたところです。ここでは、鈴木さんが車両のデザイン、あるいはこのデザインに込めた思い、デザインの意図などについて、ご本人の口からぜひご説明をお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

(鈴木氏)

皆さんこんにちは。プロダクトデザインセンターの鈴木と申します。本日は、城端線・氷見線の新型車両デザインについて、皆さんにご説明できることを大変光栄に思います。どうぞよろしくをお願いします。

まず初めに、コンセプトからご説明を差し上げます。すべてのデザインの核となる

コンセプトとして、今回「KASANE」というコンセプトを設定しました。私は富山の未来を走る新型車両を考えるために、改めて沿線4市をめぐるしました。その際に感じたのは、この場所と人が長い時間をかけて紡いできた重なりでした。海と山、東西南北の文化、日常と観光、そして伝統と未来、多層的な魅力が4市にまたがり、お互いに高め合っていると感じました。そこへ「利用者が愛着を持てる『乗りたくなる路線』を目指す」という再構築会議の思いを伺い、この重なりをひとつの物語としてとらえてみようと考えました。「KASANE」というコンセプトには、そんな沿線4市が持つ多彩な魅力への愛着と敬意が込められています。

次に車両の外観をご紹介します。目指したのは、「ワクワクする、乗りたくなる鉄道車両」です。まずこだわった点は、沿線の自然環境が映り込み、風景と車両が調和するシルバーのボディです。そして、海と山を繋ぐ青と緑のグラデーションにもこだわりました。実は初めに、なぜあいの風とやま鉄道が「あいの風」という名前なのか伺ったときに本当に驚き、感動したのを今でも覚えています。富山の皆さんが大切にされてきた「春から夏にかけて吹く北東のさわやかな風」、「幸せを運ぶ風」が私にも吹いてきたように感じられました。このあいの風とやま鉄道の色である青と緑を繋ぎ、重ね、動きのあるグラデーションで表現することで、あいの風の躍動感を、多くの方に感じてもらえたら嬉しいです。

また、この車両のもうひとつの特徴は、デザインにおける地域性の反映です。富山県西部の伝統的家屋“アズマダチ”の円窓をモチーフにした丸窓をデザインのアクセントにしました。やはり、私が身にしみて思う鉄道車両のデザインの難しさは、簡単にデザインを変えられないという点にあります。いかに長期間、富山県内外の方々に愛されながら安全性を保てるか。つまりデザインと機能、両方の持続性をどう設計していくか。何度も何度も試行錯誤を繰り返した結果が、今皆さんにご覧いただいている車両デザインです。

次に前面のデザイン、ライトについてご説明を差し上げます。車両の顔といえる前面、ここも同じくデザインと機能の持続性がポイントです。時代や流行に左右されず、10年後や20年後も古びない普遍的な美しさと公共交通手段として不可欠な安全性を追求しています。やわらかな曲線と曲面で構成された立体的な顔には、風景や光が美しく映り込み沿線の景色と調和します。車両のもうひとつの顔である目、LEDライトの周囲には、海と山を感じさせるカラーのアクセントを取り入れ、さりげなく前頭部にも地域性を表現しました。

最後に車内空間、内装をご紹介します。内装は日常×観光、伝統×未来をテーマに、心地よさとワクワク感、また富山の技や手仕事が重なり合うデザインを目指しました。外光をやわらかく反射する明るい空間に、温かみをプラスするのは、木目調の天井と床です。また、グリーンの座席は、沿線の豊かな緑を思わせ、風景との調和を意識しました。出入口にデザインした丸窓は、子供たちが立って景色を楽しめるように設計したものです。今後、内装では沿線各地の地場産業との協働により、富山の技や素材をさりげなく取り入れたいと思っています。何より、富山の皆さんが富山の素晴らしさを再発見できる要素をたくさん考えているところです。もちろん、毎日乗る日常の車両として、ロングライフデザインを意識し、汚れが目立ちにくい素材や配慮、使いや

すい機能やユニバーサルデザインも実現していきます。

以上が、新型車両のデザインの概要となります。「KASANE」のコンセプトのもと、富山の多彩な魅力を丁寧に折り重ねて、心を込めてデザインさせていただきました。この鉄道車両が通勤や通学の日常にも、観光の非日常にも寄り添い、沿線の皆さんに愛される存在になることを目指していきます。このデザインをご採用いただければ、今後さらにブラッシュアップし、「ワクワクする、乗りたくなる車両」を実現できることを楽しみにしております。どうぞご期待いただければと思います。本日はご清聴ありがとうございました。また、これからどうぞよろしくお願いいたします。

※一同拍手

(新田会長)

鈴木さん、ありがとうございました。もう少しお残りいただきたいと思います。それでは、今ほど説明がありました車両デザインについて、委員の皆さんにご発言を求めたいと思いますが、いかがでしょうか。

(角田委員)

鈴木さん、素晴らしいご提案をありがとうございました。同い年ということで、30年後を見据えた上で、またデザイン等にご配慮いただければと思います。私からは一点、まだこの車両に乗ることができない中で、多くの方に乗っていただきたいという思いを持っています。特にこれから長く城端線・氷見線を利用し、守っていく世代の子供たちが乗って楽しい、見て楽しい、このようなコンセプトを大事にさせていただきたいと思っています。例えば、子供たちはプラレール等のおもちゃで遊ぶことがたくさんありますが、電車の運転士さんの担い手もなかなかいない中で、将来自分が電車の運転士を目指すきっかけになってくれないかということも思っています。夢を追いかける、そんな内装や外装等を、詳細設計等でお願ひしたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(新田会長)

最後にまとめて、総括的に鈴木さんのご意見をお願いしたいと思います。それでは、同じ年以上の方もたくさんおられますが、遠慮なくご発言ください。

(菊地委員)

鈴木さん、どうもありがとうございました。すてきなデザインになって、これからは楽しみです。私からは少し細かい部分なのですが、一点だけお願いがあります。車両と車両の連結部分なのですが、前面と後面に幌を取りつける部分と、幌を格納する部分ができると思います。このパネルは幌がない部分が出ているのですが、せっかくこういった斬新なデザインですので、この幌の部分についても、安全性を確保しながら、できるだけ目立たないような設計にデザインを工夫していただけるとよりかっこいい車両になるのではないかと思います。私の前任の林市長もこの点は非常にこだわ

っていましたので、そういう林前市長の思いも含めて私からご発言をさせていただきました。

(田中委員)

本当にいろいろとご配慮いただき、地域を見ていただいて、素晴らしいデザインだと思っています。一つは、車両内にいろんな伝統工芸みたいなものが、少しずつ表れてくるということは、これから考えていただけると思うのですが、例えば、今のところどういうものが可能なのでしょうか。もう一つは、できればバックが雪景色になったときに車両がどのように見えるのかというのを見てみたいと思っています。もし今後そういうチャンスがあれば、雪景色がどういうふうに見えるのかということが、興味ありますので、そういう機会があればお願いしたいです。

(夏野委員)

全体として本当にいい感じになったと思っていますが、紙の配布資料とパネルの印象が違うように見えるので確認です。外観は、パネルの方が色が濃いような気がします。私は濃い方がいいと思います。それから車内も、鈴木さん自身もグリーンシートとおっしゃったのですが、紙の配布資料は、グリーンというよりも割と浅い色です。私自身は、このパネルの方が外も中もいいと思っています。特に、中については木目で明るい感じがしますが、シートが明るすぎると寒いときに寒色とまで言わないけれども、寒さを感じるのではないかと思います。緑は落ち着いた感じで、木目もあるので、シックな感じがして、毎日使う人にとってもいい感じかと思っていますので、できるだけパネルに近いイメージで進めてもらいたいと思います。

また、丸窓の円窓は本当にいいと思います。丸い窓の電車は結構あるのですが、こんな形で使ったところはあまりないのではないかと思います。本当に砺波の、砺波だけではないですが、円窓のある家というのは文化的にも豊かで少し余裕のある、プラス遊び心のあるような感じです。これから色々なことを考えたときには、そういったライフスタイルを評価する印象にも繋がるかと思っています。非常に地域性もあるし、そういった生き方についても示唆するような、少し大げさですけどそのようなことを思うので、大変よかったです。ぜひ早く完成してくれたらいいと思います。よろしくお願いします。本当にありがとうございました。

(伍嶋委員)

この度は、鈴木さん本当に素晴らしいデザインをありがとうございます。先ほどの説明にもありましたが、やはり海と山を結ぶ沿線の豊かな自然、また独自で味わい深い伝統文化、そういったものを映す洗練されたデザインだと思います。また、とても印象的で本当にすぐれたデザインで嬉しく思います。また、現在あいの風とやま鉄道で運行している車両の青と緑を活用していただいたということで、あいの風とも親和性のある配色だと思いますし、今後、あいの風と城端線・氷見線がさらに連携をしながら、いろんな事業を重ねていく、そういったことが期待できる効果を持っていると思います。

私からは、運行の問題なのですが、例えば青と緑は、海と山を連想ということで、実際に車両運行する際にも、海、氷見方面に向かう場合には青を前方に、また、山、城端に向かう場合には、緑側が前方に来るといった運行をしていただくと、視覚的にも、よりわかりやすいのかと思いますので、またそこは私どもも考えますし、連携しながらいろいろ協議をさせていただければと思います。本日は本当にありがとうございます。

(川村委員 (石原委員代理))

鈴木さん、素晴らしいデザインをありがとうございます。私どもとしても、城端線・氷見線らしい車両であり、またあいの風とやま鉄道さんらしい車両だと、素晴らしい車両だと本当に感激しています。JRとしては、これから仕上げていく責任もありますので、鈴木さんと連携をし、しっかりと進めていきたいと思っています。引き続きよろしく願いいたします。

(秋山オブザーバー)

皆さんにいろいろ言われてしまって、これ以上言うことはないかなというくらいです。皆さんと同じように、すごくすてきな車両で、早くこのタイプの車両が城端線・氷見線を走る姿を見てみたくなるような車両だと思います。今後、関係者の方としっかり協議等を進めながらしっかり車両を作っていければと思いますので、よろしく願いいたします。

(新田会長)

それでは、皆さんからご意見いただきました。すべて受けて、鈴木さんからご発言いただけますでしょうか。

(鈴木氏)

様々なご意見をいただきありがとうございました。皆さんに、車両のデザインを高く評価していただけたかと思い、大変今安心したといえますか、喜んでおります。本当にありがとうございます。検討するなかで様々なご意見をいただきながら、デザインをブラッシュアップしてきたと思っています。今後も詳細設計において、いろいろと課題もあるかと思いますが、きちんと向き合って最後までしっかりとデザインを担当していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

頂戴したご意見は今後の課題とさせていただきます。例えば雪景色の中でどう映えるのか等、しっかりと検討してまいります。また、色については今後の詳細設計の中で、改めて様々な環境での変化を踏まえて確認していく予定です。先ほどの「少し寒く感じられる」といったご指摘なども考えながら、着実に作り込んでいきたいと思っていますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

(新田会長)

鈴木さんありがとうございました。委員の皆さんからは基本的に今回のデザインを

高く評価いただくとともに、さらに磨き上げるという意味でのご意見をいただきました。そして、鈴木さんご本人からは、今後の詳細設計の中でできるだけ工夫をしていきますという、いわゆる磨き上げていきますというご返答もいただいたところです。それでは、城端線・氷見線の新型車両デザインについては、プロダクトデザインセンターの鈴木啓太さんのデザインで決定することよろしいでしょうか。

(一同異議なし)

全員賛成ということで、鈴木さんのデザインに決定しました。それでは鈴木さんにはここで退出していただきます。ありがとうございました。

※モニターの映し出し終了

(2) 再構築会議のスケジュールについて

(新田会長)

では2項目目、再構築会議の今後のスケジュールについて事務局から説明をお願いします。

※事務局から参考資料2「城端線・氷見線再構築会議のスケジュール」に関して説明

(新田会長)

このような説明でよろしいでしょうか。

(一同異議なし)

ご了承いただいたということで、年度内にあと3回程度開催させていただきます。その他全体を通してご意見があればよろしくをお願いします。

(菊地委員)

本日の議題とはあまり関係ないのかもしれないのですが、なかなかこういった機会はないので、少しだけお話をさせていただきたいと思います。実は、今年8月2日、第53回ひみまつりがあり、ブルーインパルスの特別展示飛行が行われることになっています。新田知事にも防衛省への要望にご一緒いただき、ご尽力をいただきました。皆さん方のご尽力によって実現したということで、大変嬉しく思っておりますが、おそらく氷見では経験したことがないほどのお客様が氷見にお越しになられるのではないかと考えています。できればJR西日本さんには、氷見線、そして城端線の増便増車といったところにも、少しご配慮をいただければと思っています。県、それから沿線市の皆さん方、あいの風とやま鉄道さんをはじめ、関係の皆さんにおかれても、ぜひ円滑な輸送等に、ご理解ご協力いただければと思っています。震災の被災者をはじめとして、皆さんが青い空を見上げて、笑顔になるような展示飛行になればいいと思っていますので、ご理解とご協力をぜひお願いしたいと思います。この場をお借りして少し違った話ですが、ぜひよろしくをお願いします。

(新田会長)

どうか皆さん、菊地市長の思いを受けとめていただいて、みんなで盛り上げていければと思います。復旧復興はまだ道半ばですけれども、皆さんまたは他の地域の被災者にとっても、心の復興にも繋がっていくようにしていければと思います。

それでは本日を振り返りますと、鈴木啓太さんのデザインを皆さんにご承認をいただきました。冒頭申し上げましたが、車両のデザインというのは、新しくなる城端線・氷見線、新しくなったね、変わったね、そしてこれからもっともっと良くなっていくね、乗り心地も良くなっていくね、便利になるよね、そういったことのシンボルですので、とても良いデザインを皆さんで合意できたことはとても良かったと思っています。これまでのユーザーの方だけではなく、新しいユーザーも生み出し、あるいは全国からの鉄道ファン、あるいはインバウンドの皆さんにも、気持ちよく使ってもらえる車両になることを心から願いたいと思います。あくまで基本的なデザインで、今後も皆さんとともに磨き上げていきたいと鈴木さんがおっしゃっていましたので、そのようにしてまいりたいと思います。

それから、ブルーインパルス展示飛行についても、来場者の皆さんには城端線・氷見線が重要な役割を果たす良い機会になるのではないかと思います。利用者の皆さんに城端線・氷見線を改めて認識していただきたい、大切な我々の足なんだということを知っていただく場になればと思います。

城端線・氷見線については、沿線のまちづくりや観光の施策、また JR 西日本さんやあいの風とやま鉄道さんの利用促進に向けた取組みとも連携して、より皆さんに愛される、そんな路線をともに目指していきたいと思います。よろしく願いいたします。

4 閉会

(新田会長)

それでは本日の議事はこれで終了させていただきたいと思います。皆さんには円滑な議事の進行にご協力いただきました。ありがとうございました。